

# 日本保育学会第十一回大会記事

日本保育学会の第十一回大会は、昭和三十三年は広島大学教育学部（広島市東千田町）において開催された。

会期は五月十七日（土）、十八日（日）の両日で、研究発表が非常に多数であったので、二日間とも全日にわたり、しかも研究発表とシンポジウムとは二つの会場に分かれておこなわれた。

## プログラム

### 第一日

開会の挨拶

準備委員長副会長

莊 司 雅 子

研究発表（午前・午後）

第一会場 十七

第二会場 十八

公開講演（午後）

④アメリカの幼児教育の実態

米國マントホリヨーク大学教授

L. W. ベンナー

⑤ソ連における幼児教育

広島大学名誉教授

長 田 新

### 第二日

研究発表（午前）

第一会場 十三

第二会場 十四

研究発表の題目および氏名は本誌目次参照（ただし下記八件

は報告要旨未着につき不掲載）

幼稚園教育内容についての一考察 天理大学 高橋 史郎  
保育所保育の実態について——保育調査を中心とした一考察

広島保育連盟 村上 操子

音感指導の実際 広島中島保育園 内藤 幸子

広島若竹保育園 毛利曾代子

幼児画における性別判断

呉・宮原ルンビニ幼稚園 安部 節夫

幼児指導のためのパーソナリティの調査

北海道教育研究所 小林 幹夫

幼児の道徳的しつけについて

浪速短期大学 吉岡 千秋

幼児における遊びと運動機能の關係について第一報

広島女子短期大学 浅藤きく子

小児性食性異常について第三報 結核患者の嗜好状態

広島女子短期大学 山内 美子

（なおこのほか、予告プログラムの⑥⑦⑧の三件は発表取消）  
総会（以下午後）

山下会長を議長として、昭和三十二年度事業報告、会計決算報

告、昭和三十三年度事業計画、予算案が竹田、村山兩常任委員よ

り説明があり、それぞれ承認あるいは協議決定された。なお第十

二回大会は昭和三十四年五月、東京（会場校未定）において開催

することとなった。

倉橋賞授与式

受賞題目および受賞者

④家庭保育児の家庭の実態並びに保育施設に対する関心と要望

名古屋市立保育短期大学 清 御治代

⑤ 保育所における幼児と動物との関係について

名古屋市立保育短期大学 遠藤 邦三

会長の挨拶 樋口三紀子

会場校学長、学部長挨拶 廣島大学 長 山下俊郎

共同研究発表 同教育学部長 森戸辰男

わが国における幼児保育史 皇 至道

都立大学 山下俊郎

日本女子大学 村山貞雄

宝仙短期大学 岡田正章

お茶の水女子大学 津守 真

お茶の水女子大学 赤池 溥子

立川短期大学 水野 浩志

東京大学 穴戸 健夫

(この概要は本誌五十六ページに掲載)

④ シンポジウム  
保育方法の問題点

司会者 都立大学 山下俊郎

提案者 厚生省 副島ハマ

東京学芸大学 角尾和子

広島大学 池田勝人

広島市教育委員会 樋口正司

③ 各国の保育者養成制度をめぐって

司会者 広島大学 莊司雅子

提案者 大阪学芸大学 小川正通

徳島大学 村井道明

名古屋市立保育短期大学

宝仙短期大学 岡田正章

(この要旨は本誌五十七ページに掲載)

閉会の挨拶

副会長 小川正通

来会者は正会員二五七名、準会員六九三名。計九五〇名で地元広島県内をはじめ全国各地から参集された。

なお当日研究発表についてプリントを別に準備し、希望者に有料配付した。

本大会の開催にあたっては会場校の莊司雅子準備委員長、池田勝人委員、田代高英準備委員をはじめ地元関係学校の職員、学生、幼稚園、保育所のかたがたの協力が非常に大であった。

(常任委員竹田俊雄記)

幼児の教育 第五十七巻第九号

九月号 ◎ 定価五〇円

昭和三十三年八月二十五日印刷

昭和三十三年九月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真

発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発行所 株式會社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌ご購入についてのご注文は発売所「フレーベル館」にお願いたします。